



発行：飯能市教育委員会生涯学習課（文化財担当）〒357-8501 飯能市大字双柳1-1 Tel (042)973-2111  
第5号 平成22年3月31日発行 平成18年3月31日創刊

## 飯能の石仏と歌碑を学ぼう

### ● 第5号の特集は「飯能の石仏と歌碑」

今回は石仏と歌碑を取りあげました。市内には多くの石仏があります。前回から3回シリーズで飯能の石仏を紹介しておりますが、今回は第2回

目となります。

市内には歌碑や句碑など多くの文学碑があります。この中から和歌(短歌)を石に刻んで建てた歌碑を五基ご紹介いたします。

### 特集「飯能の石仏」一知って学んで守っていくために 第2回

日本石仏協会会長  
飯能市文化財保護審議委員会委員長  
坂口 和子

**1** **石仏の種類とお姿、その信仰** 第1回では石仏について、石仏って何？ どこにあるの？ いつから造られたの？ 何のために？ どんな種類があるの？ 石仏から何がわかるの？ ということを簡単にお話しました。今回は石仏の種類とお姿、また信仰の内容などをお話しましょう。

飯能市内には約915基の石仏が存在し、50種類の石仏がありますが、そのなかで一番多いのは地蔵菩薩じぞうぼさつ（おじぞうさま）です。次が馬頭観音菩薩ばとうかんのんぼさつ（ばとうかんのん）、3番目が庚申塔こうしんとう（こうしんさま）で、この三種類が路傍の石仏の主流といってよいでしょう。多いものから紹介しましょう。

**2** **地蔵菩薩** 日本国中どこへ行っても目にすることがある仏さまで、人気ナンバーワンといえましょう。お姿は多く丸彫りまるぼ（立体的に造られた像）で立像りゅうざう（立ち姿）や坐像ざ（坐る姿）に作られます。菩薩（仏の一段階前で悟りを求める人）の中でただ一人頭を丸めた僧形そうぎやう（お坊さんの姿）で、衲衣のうえ（ころも）をまとい、右手に錫杖しゃくじやう（つえ）、左手に宝珠ほうじゆ（たま）のお姿が一般的ですが、合掌がっしやうしているお姿もあります。人間の悩みや苦しみを聞き、錫杖をもっていっしょに歩いてくださる

ような親しみやすいところが人気の要因でしょう。とく



地蔵菩薩

に子どもの夜泣き、いぼとり、子育て、厄よけなど現代でも頼りにされる仏さまです。「〇〇地蔵」といろんな名前をもったお地蔵さんが沢山おられます。墓地の入口などに六体揃った地蔵さんが立っていますがこれは六地蔵と呼んでいます。

**3** **馬頭観音** かんのん 観音菩薩のグループの一員で、他の観音とちがって忿怒相ぶんぬそうという怖い顔をしています。やさしい顔では云うことをきかない人々に、怖い顔をして救わなければならない時もあります。頭上の宝冠ほうかん（かんむり）に馬頭ばとう（馬のお顔）をいただいていますから見分けるのはやさしいでしょう。宝馬が四方を駆けめぐり、魔物を打ち破ることを表しています。馬頭を



いただいていることから運送業の人たちの信仰を集め、次第に馬の供養塔や墓標(お墓)になり、時代が下がって交通守護神的な信仰が加わって路傍に立てられるようになりました。地藏と一、二を争うほどの造立数です。



馬頭観音

**4** **観音菩薩グループ** 馬頭観音を含めた、観音の変化像(姿、形をかえたお像)があり、そのなかの主な像です。

**イ** 聖観音(正)…観音さまの基本の形で、頭に化仏(阿弥陀如来のミニチュア)のついた宝冠をいただき、蓮華(はすの花)をもっています。

**ロ** 如意輪観音…右手を頬にあてたお姿で持ち物に宝珠が宝輪(車輪の形)があります。如意というのは思いのままということです。主に坐像で寺院や墓地で見られます。



如意輪観音

**ハ** 十一面観音…お名前の通り頭上に十一面か複数のお顔があります。たくさんのお顔で衆生を見守ります。

**ニ** 千手観音…お名前の通り沢山の手がありますが、石仏の場合はたいてい数が省略されています。多くの人を救う手です。

**5** **庚申塔(こうしんさま)** 江戸時代を通して私たちのご先祖は講(同じ信仰をもつ仲間のグループ)を作って庚申をお祀りしてきました。庚申というのは「かのえさる」のことで、暦の60日に一度めぐってきます。庚申のあたり日は夜を眠らずに過ごして延命長寿を願う信仰です。こういう話が伝えられています。“人間の身中に住む三尸という虫が庚申の日にそっと天にのぼり、天帝(天の神さま)にその人の罪を告げ生命を締めようとしている。だから庚申の夜は身を慎み三尸が抜け出さないように眠らずに見張っている”というのです。講中が集まってお互いに情報交換をしあい、農作業の相談をしたり、噂話をしたりして、ある意味で信仰という名のリクリエーションだったのでしょう。爆発的に流行した証しが各地に建てられている庚申塔で、庚申講の人たちの記念塔なのです。そのお姿は他の仏さまとは大分変わっています。「青面金剛」という仏がご本尊(中央におかれる仏尊)になったものが多く、第一に怖ろしいお顔、一面六臂(顔は一つ手が六本)、髪は逆立ち蛇を冠にし、腕や腰にも蛇をまきつけ、足の下に邪鬼をふみつけているという奇怪な尊像です。見分け方は石の面に3匹の猿が彫られています。庚申のかのえさるの日なのでそれと関連させ、また目、耳、口をふさいで見ざる、聞かざる、言わざるを重ねたものでしょう。そのほか太陽、月、2羽の鶏がついているものがあり、見るほどに不思議なお姿です。日本人の創造力はすばらしいと思います。次回は飯能の石仏でぜひ見ていただきたいものをご紹介します。石仏は机の上ではなく現地で直接手に触れ目で確かめていただきたいと思っております。

庚申塔





# 飯能市の歌碑—万葉から現代まで

飯能市文化財保護審議委員会委員  
飯能歌人会会長・埼玉県歌人会理事  
綾部 光芳

**1** **はじめに** わか たんか きざ  
和歌（短歌）を石に刻み関係の深い地に建てたものを歌碑と言います。市内にはおよそ10数基の歌碑がありますが、ここではその中の5基について紹介いたします。

**2** **阿須の万葉歌碑** あす おおともの  
今から約1300年前に大伴家持によって編纂された万葉集巻十四「東歌」に次の歌が収録されています。

こま あや ひとづまこ  
あずの上に駒をつなぎて危ほかと人妻児ろを息にわがする

この歌は「崩れそうな崖の上につながれている馬が危ないように私は人妻であるあなたに恋をしてしまった。

もし、止めようとするなら、ただちに命を失うほかはない」という意味ですが、ここで、崖を意味する「あず」とは飯能市阿須を指すとの学説をもとに、平成8年(1996)3月に地権者・飯能古典の会・飯能歌人会



阿須運動公園 万葉歌碑

などの関係者の協力のもと書家の大野篁軒染筆の東歌を根府川石に刻んだ歌碑が阿須運動公園の見晴らしのよい一隅に建立されました。

**3** **若山牧水の歌碑** わかやまほくすい  
明治18年(1885)宮崎県に生まれた若山牧水は、昭和3年(1928)44歳の短い生涯の間に日本各地を旅して各地に300以上、歌人として最も多くの歌碑が建立されています。埼玉県内に建立されている歌碑の中で最も多いのは牧水の歌碑で、県内で公式に知られている牧水歌碑は五基ありますが、その中の二基が飯能市に建立されています。



飯能市民会館駐車場 若山牧水歌碑

しらじらと流れて遠き杉山の峽のあさ瀬に河鹿鳴くなり

大正9年(1920)4月に秩父から飯能まで2泊3日の旅をしたとき1泊したのが名栗のラジウム鉱泉でした。歌集『くろ土』の「秩父の春」の連作の中の一詩で、牧水夫人の若山喜志子の書を刻み、昭和36年(1961)6月に建立されました。現在は飯能市民会館の前にたてられています。

ちろちろと岩つたう水に這いあそぶ赤き蟹あて杉の山静か

大正6年(1917)11月、飯能市内で2泊した牧水は主



大松閣 若山牧水歌碑



に原市場周辺を散策したときつくられたこの歌は歌集『溪谷集』の「秩父の秋」の連作の中の一詩です。

大野篁軒染筆により、この歌碑は下名栗の大松閣の敷地内に平成2年(1990)10月に建立され、現在に至っています。

4

小谷野寛一の歌碑

明治42年(1909)8月、越生町に生まれた小谷野寛一は教員として活躍する一方、戦前は井上陽らと歌誌「みさご」の編集を行ってきました。戦後は市内の10に及ぶ短歌サークル

の指導を行い、飯能歌人会初代会長、埼玉県歌人会理事、歌誌「作風」「宇宙風」に所属し、歌集は『日月去来』『生と死のはざま』を、また『民俗茶ばなし』『続民俗茶ばなし』『続続民俗茶ばなし』他が上梓されています。平成10年(1998)6月、89歳で世を去りました。

らくしよく  
落飾のさやぎ終へたる大冬木風すむ中に  
ぜんじよう  
禅定に入る

平成5年(1993)に教え子たちにより飯能市南の医王山八王寺(竹寺)境内に建立され、平成5年4月に除幕式が行われました。

なお、歌碑の石は群馬県薄根川上流産のもじめ石で、台石は名栗川産です。この歌は落葉した後の大樹が静かな瞑想に入った様子を詠っていますが、それを作者自身に重ねあわせている奥の深い一首です。

5

綾部光芳の歌碑

小岩井下火の長泉寺再興四百年記念慶賛事業の一環として市内の書家石川司瑤による染筆が静岡産の小松石に刻まれ、平成20年(2008)10月に建立された当地方では最も新しい歌碑です。

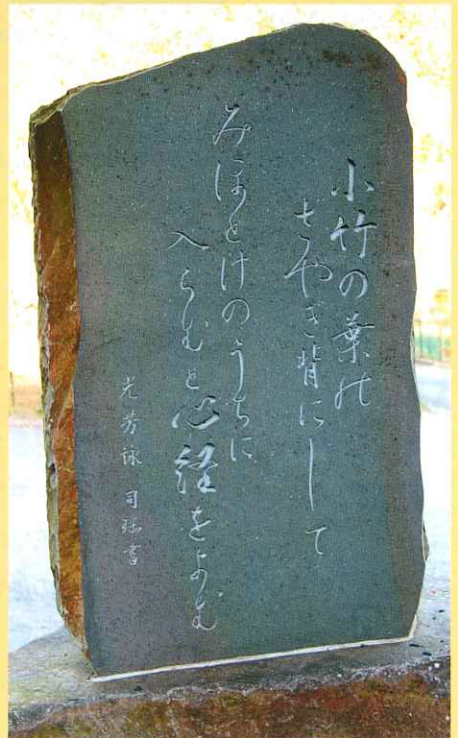
みほとけのさやぎ背にしてみほとけの  
うちに入らむと心経をよむ



竹寺 小谷野寛一歌碑

昭和9年(1934)10月飯能市生まれの綾部光芳は響短歌会を主宰し飯能歌人会第4代会長・埼玉県歌人会理事を務め、歌集は『水晶の馬』『水響』ほか計5冊を、評論集『短歌の源流を尋ねて』などを上梓しています。この歌の二句までは柿本人麿の歌の本歌取りで長泉寺を訪ねたときつくられたものです。なお、歌碑建立の答礼と

ほだい  
亡き妻の菩提  
とむら  
を吊つために  
こうげんじ  
滋賀県向源寺  
とがんし  
(渡岸寺)の国  
宝十一面観音  
りゆうぞう  
立像を模した  
実物の半分の  
高さの石仏が  
平成20年8  
月に長泉寺境  
内に建立され  
ました。



長泉寺 綾部光芳歌碑